

7/12 公共交通をもっと身近に！
小学校でバスの乗り方教室を開催

小学2年生を対象としたバスの乗り方教室を開催しました。これは子どもたちが将来、公共交通を安心して利用できるよう促す取り組みの一環で、今年も与那原小学校では東陽バス株式会社、与那原東小学校は沖縄バス株式会社のご協力のもと、授業を開催。子どもたちはクラスごとに実際にバスに乗車し、乗降のルールや公共の場でのマナーを学びました。運転手体験に参加した子どもたちは、ハンドルを操作したり、マイクでアナウンスをしたりと、普段できない体験に目を輝かせていました。今回の教室を通じ、バスへの興味が大きく膨らんだようです。



6/17 「明るく楽しく元気よく」活動へ
町女性会 田中直子氏が新会長に就任

「令和7年度与那原町女性会定期総会」が町コミュニティセンターで開かれ、令和6年度事業報告と収支決算、令和7年度事業案や予算案などが承認されました。役員改任では新垣千鶴子会長が任期満了で退任し、副会長だった田中直子さんが新会長に選出されました。町長の表敬訪問で田中会長は「会員減少や役員の担い手不足は多くの市町村が抱える課題です。与那原町女性会は、生涯学習活動の一環として交流会や情報交換を通じて地域の女性会の皆さんとのつながりを大切にしたいと考えています。『明るく楽しく元気よく』をモットーに充実した活動を目指します」と述べました。



新役員の田中直子会長(写真左から2番目)、玉城美智子副会長(右端)、真栄城清美副会長(左端)

6/15 ハーリー×綱曳で大盛況！
当添“海”フェスティバル開催



当添漁港で「第2回当添“海”フェスティバル」が開催されました。子どもたちによる道ジュネーと御願バーリーの後、サバニに乗ってロープを引っ張り合う綱曳ハーリーがスタート。今年は26チームが出場し、熱い戦いを繰り広げました。綱曳の勝負では東が勝利。ラストはライブもあり、多彩なプログラムで会場は大いに盛り上がりました。

戦後80年平和祈念事業
つなげよう いのちのバトン



戦時中の様子と復興の道のり伝える
町コミュニティセンターの集会室で「沖縄戦と戦後復興をいかに語り継いでいくのか」と題した企画展を行いました。展示では沖縄戦や運玉森での戦闘、戦後復興から現在に至るまでの歩みを紹介。町内外から約630名が来場しました。
また、企画展の一環として町ジュニアリーダークラブの子どもたちが舞台上にガマを手作りし、6月28日と7月5日にはその中で戦争体験紙芝居の読み聞かせを行いました。

戦争体験のない世代が「命の大切さ」「不戦」を語り継ぐ必要性が高まっています。戦後80年の節目を迎える今年、与那原町では「つなげよう いのちのバトン」と題した平和祈念事業を実施しています。
6月4日から7月9日には町コミュニティセンターや上の森かなちホールにて、慰霊の日に向けて毎年行われている「戦没者の名前を読み上げる集い」や沖縄戦の企画展、上映会などを行いました。



戦争体験者の図書やアニメ上映



戦争体験者が少なくなる中、図書館では「わたしたちの沖縄戦」をテーマに、沖縄戦の体験談を中心とした資料を展示。折り鶴と平和のメッセージコーナーには多くの参加者がありました。6月21日は元少年兵を題材にしたアニメドキュメンタリー「あの日、僕らは戦場で」を上映。「怖いけど、知る必要がある大切な作品」といった感想が寄せられました。

沖縄戦の戦没者を慰霊



沖縄戦で亡くなった与那原住民1973人の氏名と年齢を読み上げる集いが6月14日に開かれ、約60人の町民が参加しました。一人ひとりの名前が読み上げられる中、うんたま森合唱団や町内在住の演奏家の皆さんによる追悼の音楽が奏でられました。

対馬丸～さようなら沖縄 展示と上映

かなちホールでは、太平洋戦争中に起こった沖縄児童の集団疎開の悲劇を今に伝えるアニメ映画「対馬丸」が上映され、延べ約100人が鑑賞しました。同館2階では、戦時疎開と対馬丸事件に関する展示を実施しました。



6/19 平和への思いを共有
町遺族会 慰霊祭で戦没者を追悼

与那原町慰霊祭が、町役場向かいの「平和之塔」と「慰霊塔」で執り行われました。町遺族会の知念勇吉会長や照屋勉町長、当真聡議長ら約35名が参列し、与那原小学校、与那原東小学校の児童たちが平和を願って作った千羽鶴が奉納されました。知念会長は戦争の語り部としての遺族会の役割について話し、照屋町長は「沖縄戦の悲惨さを忘れてはいけない」と強調。参加者は戦争により犠牲となられた方々を悼むとともに、平和を願って手を合わせました。

